

# JACET-Kanto Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会関東支部

March 31, 2024 No.22

## JACET 関東支部ニューズレター第 22 号 (WEB 版) 刊行に寄せて

支部長 山口 高領 (秀明大学)

支部長を任せていただき、ほぼ 3 年が経とうとしています。私の任期は 2025 年 6 月の総会までとなりましたが、事実上 2024 年度の 1 年が最終年度です。ここ 1 年も、会員みなさまへのサービスの充実を考えてまいりました。そのためには会員みなさまのご意見が必要と考えて、関東支部大会についてアンケートを実施しました。今回は、巻頭言に、このアンケートの結果をお知らせします (表参照)。

この結果からは、High Flex 継続という判断も可能ですが、国際大会での盛会状況なども考慮し、2024 年度は数年ぶりに対面で開催することと判断しました。

私は、運営委員会の先生方に助けていただきながら、JACET の理事会に参加し、関東支部の運営の責任者となっております。よりよい運営のために、ご質問、ご意見をお気軽にいただけましたら幸いです。

実施時期：2023 年 9 月 23 日から 10 月 3 日

対象者：JACET 関東支部会員 (賛助会員含む)

実施方法：メールで依頼；web 上で回答

回収率：50 の重複しない回答；関東支部会員 1000 名とすると回収率は 5%

学生会員と賛助会員は、対面を希望している一方で、通常会員は人によって遠隔や対面のメリットを強調する度合いが異なるという結果でした。

表 会員種別と支部大会開催希望 (n=50)

	JACET 会員	学生会員	賛助会員	合計
High Flex	40.5%	0%	0%	34.0%
Zoom	35.7%	0%	0%	30.0%
対面	21.4%	100%	100%	34.0%
決め難い	2.4%	0%	0%	2.0%
合計	100%	100%	100%	

### 目次

#### ・巻頭言

JACET 関東支部長 山口高領..... - 1 -

#### ・第 2 回支部総会報告

支部事務局幹事 佐竹由帆..... - 2 -

#### ・支部講演会委員会報告

支部講演会委員長 青木理香..... - 3 -

#### ・JACET 関東支部企画報告

山口高領..... - 5 -

#### ・支部大会運営委員会からのお知らせ

支部大会運営委員長 山口高領..... - 5 -

#### ・支部紀要編集委員会からのお知らせ

支部紀要編集委員長 鈴木健太郎..... - 6 -

#### ・事務局だより

支部事務局幹事 佐竹由帆..... - 6 -

## 第2回支部総会報告

支部事務局幹事

佐竹由帆（青山学院大学）

2023年11月4日（土）にオンラインで、2023年度第2回支部総会が開催されました。支部総会では、2024年度支部事業計画・予算案及び2024年度支部人事についての説明が行われました。以下に内容を記載いたします。予算案については省略致します。

### ■2024年度支部事業計画■

#### I. 大会、セミナー等の開催（1号事業）

##### （1）支部大会の開催

名称：2024年度関東支部大会

日程：2024年7月6日（土）

場所：青山学院大学青山キャンパス

規模：約150人

##### （2）講演会及びワークショップの開催

名称：JACET 関東支部講演会

日程：2024年6月8日（土）、10月12日（土）、12月14日（土）の3回を予定

場所：未定（オンライン、対面、あるいはハイブリッド）

内容：未定 規模：毎回約60人

目的：

1) 支部講演会では、講演会を定期的実施することで、会員・非会員にとっての学びの場を提供する。

2) 研究者同士の交流・発展の場を提供する。

##### （3）支部企画の開催

名称：JACET 関東支部企画

日程：2024年11月2日（土）を予定

場所：未定

内容：未定

規模：約60人

目的：

1) 支部講演会のない月に実施することで、会員・非会員にとっての学びの場を提供する。 2) 研究者同士の交流・発展の場を提供する。

#### II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行（2号事業）

（1）『JACET 関東支部紀要』第12号（英語名：JACET-KANTO Journal）

日程：2025年3月31日（月）

形態：XMLデータ（ウェブ掲載）

目的：

1) 広く原稿を募集し、支部会員の研究の活性化と質の向上を図る。

2) 既存の種別に加え、新たな種別の創設などを通して若手研究者の発掘・育成を試みる。以上、査読を充実させることにより、様々な研究分野や研究手法を評価できるように努める。

##### （2）「JACET 関東支部ニューズレター」

日程：2024年9月30日（第23号） 2025年3月31日（第24号）

形態：オンライン（JACET 関東支部ホームページにPDFで掲載）

目的：支部活動の動向や支部会員への英語教育に関する情報提供と情報交換を行う。

##### （3）関東支部印刷物のpdf化

名称：関東支部紙媒体の『研究年報』と『学会誌』と『関東支部紀要』のPDF化

日時：2025年3月までに行う予定

目的：過去の紙媒体の成果物を有効利用するため。関東支部事務局に問い合わせた会員が、1ヶ月程度PDFを共有閲覧できるようにする。

※冊子をPDF化してくれる業者を選び、依頼する予定。PDF化するのは、『研究年報』No.2, 3, 4と『学会誌』No.7, 8, 9と『関東支部紀要』Vol.1,

2, 3, 4, 5, 6, 7。

### Ⅲ. その他（5号事業）

#### （1）支部総会の開催

名称：2024年度第1回、第2回関東支部総会  
＜第1回＞

日程：2024年7月6日（土）

形態：オンライン

目的：2023年度の支部の事業報告、会計報告及び2024年度の支部の事業計画

＜第2回＞

日程：2024年11月2日（土）関東支部企画と同日に実施予定

形態：オンライン

目的：2025年度の支部事業計画、予算案及び人事案の審議

#### （2）支部役員会の開催

名称：関東支部運営会議

日程：2024年4月13日、5月11日\*、6月8日、9月14日\*、10月12日、11月2日、12月14日、2025年1月11日\*、3月8日を予定（\*の日程については必要な場合に限って実施する。）

形態：オンライン

目的：支部の運営における審議、計画の立案

### ■2024年度支部人事■

【支部人事】（2023年度より任期2年間）

支部長（1名） 山口高領

副支部長（1名） 長田恵理

支部事務局幹事（3名） 佐竹由帆、新井 琢磨、鈴木健太郎

支部幹事（4名） 佐竹 由帆、青木理香、新井 琢磨、鈴木健太郎

支部会計担当者（2名） 辻りりこ、渡辺彰子

支部研究企画委員（28名） 青木理香、浅利庸子、

新井巧磨、伊藤泰子、上田倫史、大井洋子、小木曾智子、長田恵理、小張敬之、神村幸蔵、河内山晶子、小屋多恵子、佐竹由帆、史傑、下山幸成、鈴木彩子、鈴木健太郎、関戸冬彦、田口悦男、辻りりこ、中竹真依子、山夏恵、西川恵、馬場千秋、藤枝豊、藤尾美佐、山口高領、渡辺彰子

上記に加えて、2024年度より数名の追加を予定。

#### 【本部役員（理事）】

（任期は、2023年定時社員総会の日から2年後の定時社員総会まで）

支部長（1名） 山口高領（2023年6月定時社員総会后～2025年6月まで）

### 支部講演会委員会報告

支部講演会委員

青木理香（東洋大学）

#### ■2023年度下半期活動報告

2023年度下半期は、10月と12月に支部講演会がオンライン開催された。10月14日には、京都大学准教授の金丸敏幸先生をお招きして、「大学英語授業にChatGPTを活かすにはー生成AIの利点と注意点ー」というタイトルでご講演いただいた。米国OpenAI社が公開した生成型AI「ChatGPT」は英語教育に大きなインパクトを与えているが、その基本的な仕組み、できることとできないこと、留意点、さらに今後大学教員がすべきことなどを示していただき、大変有意義な講演会となった。12月16日は、昭和女子大学特命准教授の竹田らら先生と聖心女子大学教授の奥切恵先生をお招きし、「語用論の英語教育への応用と可能性ースピーキングとライティングからみえることー」というタイトルでご講演いただいた。お二人が編著を担当された「A Pragmatic Approach to English Language Teaching and Production」（2019）が完成するまでの過程を詳

しくお話いただき、教育者および研究者間のコラボレーションを考えている参加者にとっても得るものが大きい講演会だった。発表詳細については、後述の支部講演会報告・概要を参照されたい。

## ■ 下半期支部講演会 発表報告・概要

### (1) 第2回

日時：2023年10月14日（土）16:00-17:20

講師：金丸 敏幸先生（京都大学国際高等教育院准教授）

場所：オンライン（Zoom）

題目：大学英語授業に ChatGPT を活かすには – 生成 AI の利点と注意点 –

発表概要：2022年11月に発表された OpenAI の ChatGPT は社会に大きなインパクトを与えました。ChatGPT は、簡単な指示（プロンプト）を与えるだけで、質問に回答したり、文章を書いたりといった、これまでの AI には不可能だった知的作業が行えます。したがって、上手に使いこなせば、英語の授業や学生の学習をさらに充実したものにできる可能性を秘めています。一方で、高い作文能力や翻訳能力があるため、訳読や英作文、レポート課題などに安易に利用されると、十分な教育効果が得られなくなる恐れもあります。本講演では、ChatGPT の仕組みを解説するとともに、その特性を活かした利用法や注意点についてご紹介し、AI 時代の英語教育について考えを深める機会を提供したいと思います。

報告：ChatGPT の出現により英語教育のあり方が大きく変化しつつある昨今、教育において ChatGPT が持つ可能性と限界を理解し、効果的に教育に取り入れていくことが急務となっている。ご講演では、ChatGPT の効果的な活用方法だけではなく、実際にプロンプトを入力し生成さ

れた出力に関する分析、AAAL(AI-Assisted Autonomous Learning)に向けて大学英語教育がすべきこと、さらに情報の信頼性やオリジナリティをはじめとする倫理的課題などについてもお話しいただいた。生成型 AI に関しては大学間でも教員間でも対応の仕方や度合いに差があるが、具体的な実践方法に加え、今後教員に求められていることや目指すべき方向性をご教示いただき、参加者にとってさまざまなアイデアが生まれる貴重な機会となった。（青木理香・東洋大学）

### (2) 第3回

日時：2023年12月16日（土）16:00-17:20

講師：竹田 らら先生（昭和女子大学全学共通教育センター、国際学部 英語コミュニケーション学科特命准教授）・奥切 恵先生（聖心女子大学現代教養学部国際交流学科異文化コミュニケーションコース教授）

場所：オンライン（Zoom）

題目：語用論の英語教育への応用と可能性 – スピーキングとライティングからみえること –

発表概要：英語教育、特に、スピーキングやライティングのような産出スキルを育成する際、語用論が不可欠である。しかし、何をどのように教えるかにより、学習者の英語使用が大きく影響されることにも留意しなければならない。特定の表現を明示的に指導し日英の違いを習得させる延長線上にある学習者による英語使用の規範を詳らかにし、英語圏文化の規範に合わせるか否か、また、その向こうにあるものについて、発表者らが2019年に編集・執筆した著書をきっかけに、英語学習での語用論研究とその可能性を掘り下げる。今や小学校から始まる英語学習を、将来、社会の一員としてのコミュニケーション能力に繋げるため、教育機関の連携やリーダーシップ教育を例にあげ、教育者の視点から語用論を考えたい。

報告：ご講演者のお二人が編集・執筆を担当され、風間書房から2019年に出版された「A Pragmatic Approach to English Language Teaching and Production」が2022年度大学英語教育学会褒賞（学会優秀賞）を受賞されたことは記憶に新しい。ご講演では、お二人の出会いから執筆・出版に至るまでのプロセス（執筆者探し・構成・出版後の活動）だけでなく、各先生のご研究についてもお話しいただいた。竹田先生は、Mr. O Corpus を利用した日英語における重複発話と話題管理の違いについて、実際のコーパスデータを提示していただきながらご説明いただいた。奥切先生は、The Corpus of Multilingual Opinion Essays by College Students を構築された際のエピソード、集めた日本語を母語とする英語学習者と英語を母語とする日本語学習者のデータにみられる傾向、そこから考えられるライティング教育における課題、教員教育、コーチング教育などについてご説明いただいた。最後に「語用論と英語教育」というテーマで、竹田先生によるターゲットとする英語の種類、指導法、指導内容についてのお話があった。ご講演の最後には、フロアにいらっしゃった他の共著者の先生からもコメントをいただき、新しいコラボレーションやアイデアに対する大きな刺激となるご講演となった。（青木理香・東洋大学）

#### ■2024年度上半期活動計画

2024年度上半期は、第1回支部講演会を2024年6月8日（土）に、第2回は10月12日（土）、第3回は12月14日（土）に開催予定である。講演者等の詳細は、決定次第 JACET メーリングリスト等でお知らせする予定である。

### JACET 関東支部企画報告

JACET 関東支部

山口 高領（秀明大学）

#### ■JACET 関東支部企画ワークショップ■

ここ数年、関東支部企画では、研究手法のワークショップを行っておりますが、本年度も同様のワークショップを行いました。ワークショップ講師として、竹内理先生（関西大学）をお呼びしました。ワークショップのタイトルは、『「みんなが分かる（かもしれない）ベイズ統計の初歩」』であり、14:00 から 16:00 まで行われました。録画を許可していただき、希望する JACET 会員に一定期間視聴できる配慮を行いました。青山学院大学での対面参加者は非常に少なかったですが、多くの方が参加されました。以下に、発表概要を再掲載します。

概要：「ベイズ統計という言葉が最近よく目に（あるいは耳に）するようになったけど、難しそうだし、入門書を読んでもよく分からないし、困ったな。」この WS は、そんな英語教師の皆さんへの超入門講座です。ベイズ統計の基本的な考え方はどのようなものか、なぜこの手法が着目されるようになったのか、実際の分析手順はどのようなものか。このあたりをサラッと学んで、アレルギー反応を鎮めることを目的とします。

#### 支部大会運営委員会からのお知らせ

支部大会運営委員長

山口高領（秀明大学）

巻頭言でお知らせしましたとおり、支部大会についてのアンケートを踏まえ、対面で行いたいという希望を実現することになりました。JACET 関東支部第17回支部大会を7月6日（土）に対面（青山学院大学青山キャンパス）で開催します。どう

してもオンラインにならざるを得ないものはオンラインでも行いますが、その模様の視聴は数日遅れる可能性があります。大会テーマ並びにお呼びする方は現在交渉中ですが、近年の生成 AI と英語教育の関係の話題が尽きないことを踏まえ、昨年度に続き、関西大学外国語学部の水本篤（みづもと あつし）先生に再登壇していただけることは決定しています。

研究発表、シンポジウム、ワークショップ、SIG 発表などへのお申し込みを 4 月 11 日まで受け付けております。関東支部以外の JACET 会員も参加可能ですので、是非、発表応募やご参加をご検討ください。

### 支部紀要編集委員会からのお知らせ

支部紀要編集委員長

鈴木健太郎（北海道教育大学）

支部紀要編集委員会では毎年 3 月末に紀要を発行しています。現在、2023 年度「関東支部紀要・第 11 号 (JACET-KANTO Journal Vol. 11)」の完成に向けて、校正作業を行っています。今年度は計 5 本の応募があり、10 名の査読委員による 2 回の審査を経た結果、研究論文 1 本、研究ノート 2 本、実践報告 1 本の計 4 本の原稿を掲載することとなりました。

今年度意識して取り組んだことは形式面の改善です。テンプレートを日本語・英語ともに APA 第 7 版に準拠させ、多くの方にとって投稿しやすいものにできるよう心掛けました。その際、多くの具体例を盛り込むことで例年よりも形式面における修正が少なかったように感じました。校正作業においても引用文献のアクセシビリティを高められるよう、形式的な側面のチェックにも注力しました。

私は今年度から紀要編集委員長を務めさせていただきますが、副委員長の鈴木彩子先生

をはじめ、委員の先生方の協力を得ながら無事に発行を迎えられそうで安心しています。査読や編集委員による確認などを通して、原稿の質が向上していくのを間近で見ることを通して、私自身多くの学びを得ることができました。投稿数が 5 本というのは残念でしたが、その分投稿者の方との迅速で密なコミュニケーションをとることができ、改めて論文の出版がたくさんの人との協同作業なのだ実感しました。この 1 年は、支部紀要の在り方、査読者や投稿者との関係など、考えさせられることが多かったです。関東支部紀要が投稿者、読者のみなさまにとってよいものであるよう努力して参りますのでこれからもどうぞよろしく願いいたします。

紀要編集委員会メンバー：鈴木健太郎（委員長）、鈴木彩子（副委員長）、小木曾智子、神村幸蔵、小屋多恵子、鈴木健太郎、田口悦男、中竹真依子（敬称略、50 音順）

### 事務局だより

支部事務局幹事

佐竹由帆（青山学院大学）

#### ■住所変更届提出のお願い■

転居やメールアドレス変更など登録情報変更の際には、JACET 本部事務局へ変更届を提出してくださいませよう、どうぞよろしくお願いいたします。

### JACET-Kanto Newsletter 第 22 号

発行日：2024 年 3 月 31 日

発行者：JACET 関東支部（支部長 山口高領）

編集者：長田恵理、藤尾美佐、下山幸成

発行所：〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学 佐竹由帆 研究室